

明塾新聞 九月号

さくらだより



講師挨拶 平尾智子先生



フランスでオリンピックが催されています。

私はスポーツにとっても興味があるので、観戦三昧、寝不足必須の毎日です。

選手表情やコメントに興奮したり涙したりと大忙しです。さて、そのオリンピックで何を思うかという話です。

結果もそうですが、私はこの結果のために、どれだけ努力をされたのかということを考えます。人には等しく1日24時間、1年365日という時間があります。

その時間のおおよそを一つのこと(一つの競技)のために努力し続ける、そのことを思う

と尊敬、ただただ尊敬してしまっています。

思い描いた結果と違い涙する、今、メディアで色々話題になっていますが、それくらい泣ける、涙が止まらない努力をしてきたんだと私は考えています。

オリンピックのわずかな期間に自分のピークを合わせる努力、尊敬でしかありません。

好きなことであっても、その努力の毎日の中には苦手、スランプ、不振もあつて楽しいことばかりではありません。そこから逃げることなく精進し続ける、すごい!と思うのです。

勉強に対して、どこまで努力できますか?

オリンピック選手なみとはいかないと思いますが、結果もそうですが、あとから胸を張れる、人から言われるよりも自分が一番知っている、そんな努力をしてみませんか?

塾生にきいてみました!
時間の使い方

もし時の流れがゆっくりになったら私は自分がしたいことを思う存分にしたいです。例えば好きな漫画をよんだり美味しい物をたべにいきたいです。

同志社女子中学校三年

山口真奈さん



2024年度 中学三年生対象 第2回 五ツ木・京都模擬テスト会

60余年の実績を誇る

京都で最大のテスト会!

キャッチアップ!

夏休みの学習成果を確認し、まずは目標を設定しよう!

9月8日(日) 会場 明塾

和菓子の世界



和菓子は、日本の歴史や季節感から生まれた伝統文化であるとともに、それぞれの地域に根ざした食文化を表すものです。

和菓子の歴史は、縄文時代までさかのぼるとされています。木の実を粉碎して、水でアクを抜き丸めたもの。これが団子の始まりといわれています。

その後、唐(現在の中国)との交流や茶の湯文化の発展などの影響を受けながら和菓子は進化。多様な素材を取り入れながら、製造や加工方法を発展させて、伝統的な技術を生かしつつも高品質で美しい形状の和菓子が、生み出されていきました。

その一方で、古くからの団子や餅が根強く好まれているのも、和菓子文化ならではの特徴。年中行事にも欠かせない和菓子は、日本の伝統文化と深く結びついて愛され続けています。

(農林水産省HPより)

募集!

好きな和菓子

季節の移り変わりがはっきりしている日本。和菓子の世界でも、季節感をとてても大事にしています。

春はさくら餅、夏は水ようかんといったように、それぞれの時期だけに作られる和菓子があり、これらを通じて日本では四季の訪れを感じるすることができます。

勉強の合間に甘い物でリフレッシュ!好きな和菓子ぜひ教えてください。

【応募方法】文章、写真、イラスト等、すべて用紙は自由です。お名前を記入して、担当の先生にお渡し下さい。次号で紹介させて頂きます。

【締め切り】九月十四日(土)
【特典】先着十名様に図書カード五百円分を進呈いたします。

※募集テーマ以外の作品も、随時受け付けています!